



平成 19 年 5 月
No. 41

名古屋工業大学機械工学科内 巴会本部
〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 Tel (052) 735-5343
Fax (052) 735-5342

ホームページ: <http://www.mech.nitech.ac.jp/~tomoe/index.html>

巻頭言

「法人化により大学はこう変わった： 研究の重点化」

巴会副会長 長野 靖尚

大学の使命は「教育」、「研究」、「社会貢献」にあることは言うまでもない。文部科学省の「第3期科学技術基本計画」においても、第1に人材戦略、第2に基礎研究戦略、第3にイノベーション戦略、第4に基幹技術戦略、そして第5に国際戦略を挙げている。ただ、法人化に伴い、大学に経営的自立が求められ、研究費の獲得が特に重要となった。



この要求に本学がいかに対処しているか述べたい。まず、本学の基礎研究に関する事項を戦略的に企画立案する為、法人化後「研究企画院」を設置した。研究企画院の主たる任務は、「研究活動の基本方針」、「学術プロジェクト研究」、「研究活性化経費の配分方針」、「研究についての自己点検及び評価」、「大型研究設備の整備及び運用」等に関する事項について、国・地方自治体、産業界等の動向を汲み上げ、全学体制で企画立案することにある。

研究企画院で議論的となる学外の「競争的研究資金」は、国のものだけを見ても多岐に亘る。文部科学省管轄だけでも、基礎となる「科学研究費補助金」から、「戦略的創造研究推進事業」、「科学技術振興調整費」、「独創的シーズ展開事業」、「地域結集型共同研究事業」等々幾つかの競争的資金が設けられている。これに加え、経済産業省や総務省等のものがあるから、後は教員の努力次第である。上記のように、法人化後の大学はこれまで以上に競争的資金に頼らざるを得なくなった。知の創造を担う大学の死活問題と言えよう。

本学では、「学内研究推進経費」と呼称する学内研究

費を、学長裁量経費の一環として準備した。本年度は、国の競争的資金獲得をターゲットにおいた学内研究を補助する為に総額 4000 万円を計上した。文部科学省が提言している基礎研究戦略では、多様性を確保して推進し、世界最高の科学水準を目指すことと明記されている。即ち、基礎研究は科学の発展と連続的なイノベーション創出の源泉と捉えている。「イノベーションの創出」を第3期科学技術基本計画と併せて考えると、「ライフサイエンス」、「ナノテクノロジー・材料」、「情報通信」、「環境」と言った重点国策4分野の融合領域（ナノ・バイオ、環境ナノ材料等）が課題となる。本学の「学内研究推進経費」は、国策研究への準備金とも言えよう。

法人化後の本学のユニークな組織として、異なる専門分野の融合による新学問領域の開拓と共に、新産業創出を目的として、複数の研究者の協力の下に研究を推進する「プロジェクト研究所」を学内に設置した。重要なのは、研究所の運営は全て外部資金によるという条件が課されていることである。即ち、外部資金が研究所の運営経費であり、その額も1研究所当たり各年度 2000 万円以上なければならない。この条件の下に設置期間を3年以上5年以下として、プロジェクト研究所を学内に設置することを認めた。既に17のプロジェクト研究所が稼働している。これらは、社会貢献に繋がるのと同時に、外部資金導入を活性化させ本学の自立機構の重要な柱となっている。

社会貢献を示す指標として、技術移転や新産業創出が挙げられよう。ここで問題となるのが知的財産の管理である。発明が原則機関帰属となった為に、「特許」に関する管理運営がより厳しくなった。本学では独自の「コア出願方式」を実施し、学内の端末から特許庁へ直接出願することにした。その結果、出願件数は大幅に増加した。しかし、従来卒業研究や修士論文の発表会は全て公開であったが、特許絡みのものは本年度から非公開になった。いかなる条件下でも、大学の使命は知を創る「研究」、知を伝える「教育」、そして知の活用の道を拓く「社会貢献」であることを忘れてはならない。教育・研究の在り方を今一度問いたい。

(S41、前本学副学長、理事)

’06 総会講演会資料

「H-II A ロケットの信頼性と民営化」

三菱重工業 名古屋航空宇宙システム製作所
宇宙機器技術部 顧問

小林 実

(中菱エンジニアリング (株) 大江事業所)

1. はじめに

H-2A ロケット打上げ業務は国の方針で民営化されつつあり、民間の力を活用して、世界に伍していくことが期待されている。ただし、ロケット打上げは、常にリスク (技術リスク、事業リスク)



を含んだものである。技術的な信頼性及び事業性から見た民営化について、今の状況 (課題) と、今後見直しについて述べる。

2. H-2A ロケットの概要

H-2A ロケットは、宇宙航空研究開発機構によって開発された実用衛星打上げロケットであり、我が国の基幹ロケットとして位置付けられているものである。1 段、2 段とも液体水素、液体酸素を推進薬とした、世界的にも最も効率の良いロケットである。また、2 段が再着火できる能力も持ち、より多くの自由度を持ったロケット運用が出来る特徴がある。ロケットの静止衛星の打ち上げ能力を示す指標として、静止遷移軌道 (静止衛星を打上げる為の楕円軌道で高度約 36000Km×約 300Km) への投入能力があるが、H-2A ロケットの場合 4.1 から 6.0 トンである。現在最も売れているロシアのプロトンロケットの打上げ能力が 4.7 から 5.6 トンであるので、世界の実用衛星を打上げるのに最適な能力を有しているものと考えられる。

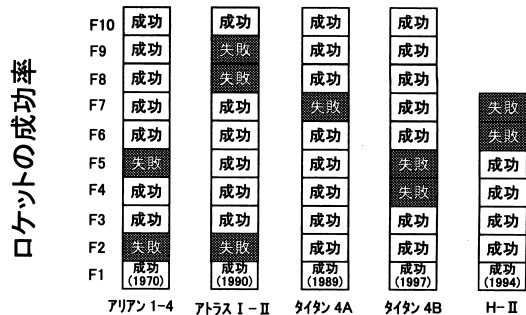
3. ロケットの信頼性

ロケットは、30 万個ほどの多くの部品で出来ているということと、打上げた以降は手が出せないという特徴がある。また、液体エンジンは、液体水素温度である -253℃ と、燃焼ガス温度である 3000℃ が、ごく近い距離で熱勾配をもつことになり、熱応力、耐

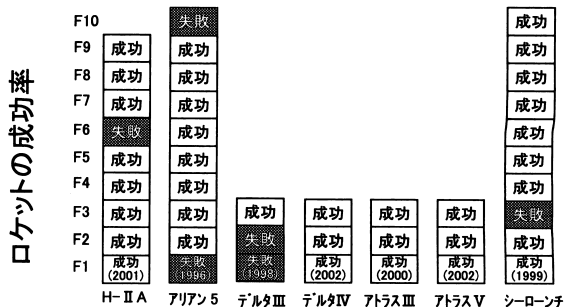
熱材と言った点で限界に近い設計になっている。一般構造にしても、構造設計の破壊に対する安全率が、航空機の場合の 1.5 より更に厳しい 1.25 が採用されている。また、軽量化に対する要求も厳しく、システムのすべてに冗長系を持つわけに行かない状況である。このようなことから、ロケット設計では、信頼性設計技術が発展し、この技術に基づいて部品管理、システム試験、機能試験を行い、極力工場内でその不適合を見いだす努力をしてきている。それでも、初期に於いては主に設計の至らない部分で、また、ある程度進むと工場内での製作ばらつき等で、失敗に至ることがある。下図は世界のロケットに於ける開発初期の成功/失敗の数を示すが、初期の 10 機に於いては 1 から 3 機は失敗していることがわかる。一般に開発後 20 機までは成功率が 90% 程度と言われている。このように、ロケットは早く実績を積んで信頼性を上げると共に、毎回の打上げに於いても、最終的な失敗には至らなかった不適合も有る。そのような箇所は、号機毎に原因究明を行い、次の号機に必ず反映をしていくことが、ロケット信頼性を上げる上で重要なことになる。

このように信頼性向上の特効薬は無く、技術者は、

初期10回の打上げ実績
— 20世紀の打上げ機 —



初期10回の打上げ実績
— 新型ロケットの場合 —



現物と機能試験の工場内データを良く見、飛翔後テレメータデータを良く見ることが唯一の信頼性向上に繋がる道である。H-2A 6号機は失敗をしたが、その後、徹底的な原因究明が行われ、また同種の原因での不適合が生じないように、横通し（水平展開と呼ぶ）が実施された。逆の見方をすれば、H-2A は6号機の失敗で、圧倒的に H-2A の打上げ信頼性が向上したと言える。

ロケットの失敗は誰にでもわかる明確な現象となって表れる。ここで重要なのは、誰が責任者かと言って責めるのではなく、「本当の原因を追及する事が唯一の責任である」ことに信念を持ち、ロケット事業を進めることである。世界では、このことが常識（文化と呼びたい）になっている。例えば、スペースシャトルが失敗して何人かが亡くなった翌日に、米国大統領が「乗り越えて進もう」と演説するのはこの文化である。同種のことは、ロケットに限らず大規模システムを開発維持する場合の重要な考え方であり、技術先進国としての見方であると考えます。

4. H-2A ロケットの民営化と課題

<世界実用衛星需要>商業衛星については、今後アジア地域の新興顧客及び現衛星の代替需要により中期的には回復基調と見られるものの、当面の世界商業衛星の打上げ需要は年間 20 個程度である。これに対して、欧米、ロシア、中国、日本の各ロケット打上げ会社がひしめき合い、過当競争の状態になっている状況である。また、打上げ市場価格は、比較的安価なロシア製ロケットに誘因されている。

<各国の状況>このような厳しい状況の中で、各国とも、国内官需衛星をベースにして、政府の支援を受けながら、少ない商業衛星受注にしのぎを削っている状況である。

<H-2A の基本的なスタンス>ロケットは休まず作り続けないと、信頼性が維持出来ない特質がある。また、現在の国内生産設備稼働率、技術要員の維持、部品メーカーの安定的供給等から判断して、年間3機から4機の一定した打上げが最も望ましい形態である。

<民営化に対する課題>

- ① ロケットの低コスト化：三菱重工始め国内にもロケット製造に係わるメーカーは多くあり、各現

場でさらなる低コスト設計、低コスト製造に努める必要がある。このあたりが民営化の狙いのひとつでもあり、民は自由度を与えられて、低コスト化に知恵を出すべきところである。このためには、まとめ発注、部品の共通化等取り組むべき課題も多いはずである。

- ② H-2A ロケットに対する官民役割分担の明確化：H-2A は国の基幹ロケットと位置付けされており、その維持に対して国は責任を負うものである。具体的には、設備インフラを含む基盤維持は国が行い、ロケットの打上げは民間で行うと言った役割を明確化して、推進することが必要であると考えます。
- ③ 打上げ時期の制約緩和：種子島の周囲は豊富な漁場にもなっており、現在年間の打上げ可能日数が最大で 190 日間と制約されている。実用衛星は何時上げるかが重要であり、大きな制約である。今後、H-II A を安全保障目的で使用することが認められた場合、この制約は打上げの即応性を阻害する要因として見直す必要が出てくると思われる。
- ④ 衛星空輸：商業打上げ市場では衛星空輸が世界標準であり、現種子島空港はこの基準を満足していない。
- ⑤ 射場環境整備：打上設備、道路、宿泊設備等社会インフラについて整備して頂く必要がある。なお、ロケット打上げサービスに対する消費税に関しては、衛星という貨物を国内以外の地域である宇宙空間へ輸送すると言う解釈が認められ免税扱いとなった。これは、経産省のお骨折りの結果であり、有り難いことである。

5. 終わりに

最後に、この歴史と伝統のある巴会で、ロケットのことを発表させて頂く機会を頂きまして有り難く考えております。現役の学生さんから大先輩まで入れた総会は立派なものであり、羨ましくも思った次第です。今後とも末永く、巴会の発展を祈念して終わりにします。どうも有り難う御座いました。なお、ロケット普及の面から、このような講演で良ければいつでもお引き受けしますので、声をおかけください。

関 東 支 部 便 り

巴会の皆様には、日ごろ大変お世話になっています。私たちの母校では、大学創立 100 周年記念として国際フォーラムなど様々な事業が行われています。また、母校と同窓会との連携強化も望まれていますので、皆様のご指導、ご協力をお願いします。

平成 18 年度の巴会関東支部における活動を、以下のとおりご報告致します。

1. 関東支部の活動

巴会関東支部は、名古屋工業会東京支部の構成メンバーとして、工業会東京支部の下記の行事に参加しています。

- ① 支部総会：毎年 11 月に開催されます。関東支部「巴会秋の集い」を兼ねています。
- ② ごきそサロン：3 月と 7 月の第 2 水曜日 18 時 30 分から東京駅地下街八重洲倶楽部で、名古屋工業大学 OB の様々なテーマでの興味あるお話を聞くことができます。
- ③ エクスカーション：5 月中旬から 6 月上旬の間に毎年 1 回「日本文化遺産を巡るたび」で、関東各地の魅力溢れる名所を訪れています。18 年度は、6 月 4 日、長瀨方面にバスで出掛け、ケーブルカーで宝登山に登り、長瀨ライン下りで楽しみました。
- ④ 囲碁（東京棋友会）：毎月第 2・第 4 土曜日の 13 時から八重洲倶楽部（ただし奇数月は東京囲碁サロン）で定例会、その他大会（春・秋）、連碁大会（正月）、対抗戦などが開催されています。
- ⑤ ゴルフ（東京ゴルフ会）：定例コンペを神奈川、千葉、埼玉他で年間 4 回（4 月、6 月、9 月、12 月をベースとして）開催されています。12 月は忘年会を兼ねています。

これらの行事の案内は、名古屋工業会会誌「ごきそ」に掲載されますので、お申込みの上ご参加下さい。

2. 平成 18 年度「巴会秋の集い」（兼名古屋工業会東京支部総会）

名古屋工業会東京支部総会は、平成 18 年 11 月 9 日（木）KKR ホテル東京にて、開催され、母校から松井信行学長（E41）、大学院の伊藤基之教授（M43）、森秀樹教授（D52）、名古屋工業会から牛込進理事長（Y33）、道家清正常務理事（Y30）をお迎え致しました。

参加者は 168 名でした。巴会関東支部の会員は下記 17 名が参加し旧交を温めることが出来ました。

参加者氏名（敬称略）

小関 健二（M18）、内海 安博（M26）、松波 正壽（M34）、岡本 弥彦（M35）、東島 良治（M35）、星野 三郎（M35）、野澤 滋為（M36）、松岡 達生（M37）、伊藤 友雄（M43）、加納 隆（M43）、新谷 誠剛（M43）、馬場 利昭（M43）、張田 吉昭（M43）、高橋 勲（M44）、小野 尚純（M45）、植林 信一（M46）、松浦 明人（M48）

3. 平成 19 年度「巴会秋の集い」（兼名古屋工業会東京支部総会）

本年度も平成 19 年 11 月 8 日（木）、昨年と同様、東京駅近くの KKR ホテル東京（地下鉄東西線竹橋、千代田線大手町、都営地下鉄線神保町）にて開催されます。在京同窓生との交流の場や母校の最新の状況を知る良い機会でもあり、多数の皆様のご参加をお待ちしています。

4. その他

八重洲倶楽部（東京都中央区八重洲 2-1 八重洲地下街中 1 号：電話 03-3275-0801、FAX03-3275-1106：利用時間は 10 時～22 時、日曜祝日は休み）は、名古屋工業会東京支部が会員となっている会員制クラブで、受付で東京支部専用の署名簿に記入すれば、ロビーでの待ち合わせ、喫茶や娯楽室での囲碁・麻雀などが利用できます。ただし、申込者は名古屋工業会会員である必要があります。

（M43 張田 吉昭、関東支部長）

関西支部便り

平成 18 年 7 月 8 日～9 日に津山で行われました一泊ゴルフ付総会についてご報告申し上げます。今年度は河辺工業会大阪支部長様のご参列をいただき、M45 藤川氏、M46 中村氏を始め松下電器産業の皆様のご尽力により、松下電器産業(株)津山工場見学を兼ねて総会を下記の如く開催いたしました。翌日はゴルフ組と観光組とに分かれて夏の岡山路を満喫いたしました。有意義な、様々な情報交換のできる総会となりました。天候にも恵まれ、地元名門コース「作州武蔵 CC」、観光コース「武蔵の里」、お泊りも湯郷温泉屈指の「湯郷グランドホテル」と、お楽しみ盛りだくさんの総会を無事に終えることができました。本当にありがとうございました。

記

- 参加者 … 26 名
- 支部長挨拶 … 支部の現状報告
- 会計報告 … M43 堀内会計担当幹事
- 会計監査報告 … M45 藤川副支部長

- 巴会本部総会報告 … M45 掛田副支部長
- 工業会報告 … K45 河辺大阪支部長
- 工業会入会ご案内とお知らせ … M47 安藤工業会担当幹事
- 記念撮影 … M37 平野氏・M45 藤川氏・M46 中村氏にお世話になりました。
- 懇親会 … 湯郷グランドホテル
- ゴルフ組 … 参加：16 名「第 1 回巴会関西支部ゴルフコンペ」於：作州武蔵 CC
優勝 46 毛利氏・準優勝 K40 河辺氏・3 位 45 藤川氏・4 位 46 松宮氏
決議事項：このコンペは毎年の開催の恒例行事とする。
次回ゴルフコンペ幹事は 46 毛利氏・51 田中氏に決まりました。
- 観光組 … 参加：6 名 ジャンボタクシーにて：武蔵の里→ベルビール自然公園→あわくらんどで昼食→津山城址「鶴山公園」→津山市内・・・
(M43 福竹 泰彦、関西支部長)

巴会運営便り

- 平成 18 年 6 月 17 日学内において、平成 18 年度巴会総会・理事会が開催され、全議案が承認されました。総会後の講演会では、講師として三菱重工業名古屋航空宇宙システム製作所宇宙機器技術部顧問の小林 実様をお招きし、演題「H-IIA ロケットの信頼性と民営化」について大変興味深いご講演を拝聴しました。
- 平成 18 年 9 月 15 日理事会が開催され、18 年度の活動計画、巴会収支改善策、100 周年募金活動支援策、OB は語る会について議論がなされました。平成 19 年 2 月 2 日、

- 4 月 9 日の両日、理事会が開催され、18 年度決算案、名簿発行状況、クラス会費納入状況、収支改善策、名古屋工業会名古屋支部活動状況、19 年度活動計画・予算案、理事交替等について報告、協議がなされ、新年度総会への対応・準備を終了しました。
- 平成 19 年 3 月 24 日母校 M1 教室に於いて巴会主催の卒業記念パーティが開催され、塩見会長をはじめ多くの先生方並びに OB の参加で、盛大なパーティとなりました。準備に当たられた先生方に心より感謝します。
(S57 伊藤 克彦、事業担当)

訃報 (下記の方々のご逝去を悼み、心からご冥福をお祈り致します。)

| | | |
|-----------------------|----------------------|-----------------------|
| S04 下山 鑛一 H18. 5. 21 | S16 齋藤 寛 H18. 7. 28 | S25 吉原 久夫 H18. |
| S09 前田 釧重 H18. 5. 29 | S16 川合 悟郎 H18. 4. 28 | S29 日比 三喜男 H18. 3. 26 |
| S10 川喜田 清 H18. 4. 3 | S17 金山 督 H16. 11. | S34 大久保 収 H18. 1. |
| S12 引山 次郎 H18. 1. 12 | S19 真野 勇 H17. 7. 18 | S33 宮崎 和彦 H18. 5. 5 |
| S12 永田 大典 H18. 5. 24 | S20 佐藤 由男 H18. 5. 2 | S35 梅垣 宏史 H18. 10. 9 |
| S13 長江 四郎 | S22 川村 利三 H18. 8. 16 | S37 吉村 健 H15. 9 |
| S15 岡野 操 | S22 牛田 覺光 H19. 1. 13 | S42 小山 昭宏 H18. 8. 14 |
| S15 鈴木 秀臣 H17. 11. 23 | S22 山田 政弘 H18. 8. 8 | 元講師 榊原 浅雄 H18. 9. 29 |
| S16 花田 誠之 | S23 高橋 進 H18. 2. 12 | |
| S16 樋口 憲一 H18. 5. 16 | S23 早川 武夫 H18. 4. 1 | |

学 内 報 告

< 学生向け講演・懇談会

「“OBは語る”会」報告>

巴会主催の第7回「OBは語る会」が、平成18年11月29日(水)に機械工学科(3号館)2階大会議室にて開催されました。学部2年生から大学院生まで、幅広く56名の学生が参加し大変盛況でした。今回は、下記の5名の方々に、会社でのお仕事の様子や後輩学生へのアドバイスなどについてご講演いただきました。

講演1 河合和彦氏 (H10年度院卒)

中部電力㈱

「電力会社に入社して」

講演2 村上訓子氏 (H16年度学部卒)

㈱エィ・ダブリュ・エンジニアリング

「私が技術者になって」

講演3 中垣 将氏 (H16年度院卒)

積水化学工業㈱

「会社紹介と私の仕事」

講演4 鶴飼明恵氏 (H15年度院卒)

ブラザー工業㈱

「入社4年目の仕事紹介」

講演5 仙石武広氏 (S61年度院卒)

㈱デンソー

「私の生産技術業務」

以下に参加学生の感想の一部を紹介します。

- 個人個人の仕事への考え方の違いが分かり興味深かったです。
- とてもわかりやすく身近な感じで聞くことができました。セミナーなどで聞いている人事の方とはまた違った印象を受けることができ、とても興味深かったです。
- 仕事の話を楽しそうに話されるのを見ると、働くことも楽しそうだなと思いました。
- 就職活動中の私にとって参考になる意見も多数ありました。
- 自分が行きたい企業の方のお話が聞けて、とても参考になりました。就活に対するヤル気も以前よりわいてきました。
- 就職関係の話がとても共感出来ました。
- ためになる話をありがとうございました。ぜひ就職活動に活かしたいと思います。
- 入社後の体験などを丁寧にお話いただきありがとうございました。

また、講演終了後、簡単な料理や飲み物を準備して談話会を開催し、講師の方々には学生からの様々な質問に対して丁寧にお答えいただきました。本会の様子は巴会ホームページ

(<http://www.mech.nitech.ac.jp/~tomoe/>) に掲載

してあります。大変有用であったとの意見が多かったので、今後もっと多くの学生が参加できるよう実施方法についても検討していきたいと考えております。

最後になりますが、大変お忙しい中講師をお引き受けいただきましたOB・OGの方々に深く感謝致します。

(学生会担当：長山和亮、坂口正道)

< 学内人事異動 >

名古屋工業大学機械工学科、大学院機能工学専攻・都市循環システム工学専攻・情報工学専攻・産業戦略工学専攻の機械系分野において、つぎの人事異動がありました。

平成19年2月28日付

退職

菊植 亮

平成19年3月31日付

退職

望山 洋

退職

水野 文雄

退職

長野 靖尚

平成19年4月1日付

特任教授 着任

長野 靖尚

< ソフトボール大会 >

平成18年9月11日、まだまだ厳しい太陽のもとで巴会ソフトボール大会が千種グラウンドにて開催されました。教員学生入り交えての激戦の末に堂田・北村研究室が優勝、準優勝は山田(学)研、3位は松本研となりました。

(鬼頭研：立松)

< 卒業式 >

平成19年3月24日に卒業式が挙行政され、学部機械工学科では第一部135名(昨年148名)および第二部26名(25名)が卒業証書を、大学院の機械系講座では84名(94名)が修了証書を、7名(8名)が学位記を手に入れました。なお平成18年9月30日修了・卒業者は大学院0名(0名)、第一部0名(1名)、第二部0名(1名)、平成19年3月31日卒業者は第一部5名(9名)、第二部4名(6名)でした。

学業成績が優秀な下記の機械工学科卒業生9名と機械系大学院博士前期課程修了者2名に対して各賞が贈られました。

○名古屋工業会賞 3名

第一部 浅井 貴友, 荒川 仁

第二部 千藤 秀昭

○日本機械学会畠山賞 3名

第一部 加藤 慎太郎, 安田 亮太

第二部 西川 数磨

○巴会賞 3名

第一部 武澤 健司, 笠井 俊明

第二部 星野 大輔

○日本機械学会 三浦賞 2名

博士前期課程 井出 雄一郎, 宮元 健司

＜平成 19 年度卒業生・修了者一覧＞

以下に示すのは、機械工学科卒業生および機械工学科関係の大学院修了者です。

■ 大学院 博士後期課程 修了者 (7名)

大岩 徳雄, 梶谷 剛, 加藤 健次, ブラディミロフ ブラゴベスト, 森田 昭生, 吉 勇, 羅 剣平

■ 大学院 博士前期課程 修了者 (84名)

| | | | | | |
|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
| 赤塚 保典 | 井上 武文 | 桑田 祐介 | 竹下 正展 | 野崎 翔太郎 | 水落 毅 |
| 浅井 真也 | 今本 丈雄 | 高 志剛 | 竹中 一博 | 野畑 茂広 | 水野 望 |
| 浅野 祐矢 | 井本 由然 | 酒井 聡 | 谷掛 友久 | 服部 和道 | 南浜 貴男 |
| 旭 岳史 | 岩橋 睦 | 佐々木 和敬 | 俵迫 裕子 | 林 亮宏 | 宮元 健司 |
| 芦澤 正樹 | 上野 真 | 佐野 勉 | 張 丹 | 原川 勉 | 村松 勇 |
| 瀝美 英敏 | 上原 慎也 | 柴田 圭司 | 遠山 栄一 | 樋口 貴洋 | 森 麻子 |
| 天木 伸吾 | 江上 裕史 | 清水 信二 | 戸倉 大輔 | 日比野 剛士 | 森島 直紀 |
| 飯田 裕樹 | 江崎 幸幸 | 謝 金木庄 | 富田 和真 | 平野 拓也 | 森山 啓史 |
| 石原 弘章 | 大岩 幹生 | 社河内 省吾 | 永井 亮一 | 平野 将宏 | 山内 啓 |
| 石原 歩 | 大内 健史 | 杉浦 秀樹 | 中島 明 | 福永 晃久 | 山崎 健祐 |
| 井出 雄一郎 | 小縣 智史 | 杉野 智彦 | 中村 聡志 | 古田 晴典 | 山下 拓郎 |
| 伊藤 理貴 | 小川 雅之 | 鈴村 信洋 | 中村 亮太 | 古谷 祐二 | 山田 哲史 |
| 犬飼 雅富 | 小川 秀明 | 多喜 康裕 | 長安 政明 | 牧 正幸 | 吉田 直彦 |
| 井上 亮 | 加茂 雅彦 | 竹内 昌裕 | 成田 健吾 | 丸井 健一 | 李 允哲 |

■ 学部 第一部 卒業生 (140名)

| | | | | | |
|---------|--------|--------------|--------|--------|-------------|
| 相川 史壮 | 遠藤 美沙 | 藏田 幸子 | 高野 洋瑛 | 西尾 大二郎 | 安田 亮太 |
| 浅井 貴友 | 大武 史典 | 河村 翔太 | 竹内 梨紗 | 新田 洋介 | 山口 貴生 |
| 浅野 旭弘 | 大槻 優人 | 小鹿 雄介 | 竹内 彰彦 | 沼田 将成 | 山口 喬也 |
| AZAHARI | 大坪 尚充 | 近藤 佑一 | 竹内 俊介 | 服部 航 | 山崎 聖 |
| 天野 友樹 | 大西 祥太 | 後藤 秀男 | 武澤 健司 | 濱田 慶信 | 山下 昌平 |
| 荒川 仁 | 小川 佳輝 | 後藤 有紀 | 竹谷 侑馬 | 早川 浩司 | 山田 康嗣 |
| 池本 純一 | 奥村 允 | 後藤 仁美 | 武田 公平 | 林 翔 | 山田 卓司 |
| 石井 歩 | 小掠 隆広 | 斉木 康人 | 竹本 欽一 | 原 勇介 | 山中 恵一郎 |
| 石川 敦正 | 尾関 牧人 | 齋藤 俊介 | 田中 聡 | 平井 啓太 | 山本 次郎 |
| 石谷 彰浩 | 小野 遼平 | 佐合 芳道 | 田中 寿光 | 平野 勝裕 | 横野 周一 |
| 石田 貴裕 | 柿崎 博匡 | 佐藤 英雄 | 田中 秀明 | 平松 伸章 | 吉田 和仁 |
| 石田 弘樹 | 笠井 俊明 | 柴田 裕紀 | 塚田 宏 | 袋田 聖 | 吉田 尚仁 |
| 石山 達慎 | 梶野 佑介 | 柴野 嘉孝 | 塚本 佳典 | 藤平 梓 | 渡辺 祐二 |
| 磯部 秀明 | 桂川 雅人 | 陣野 淳 | 辻 靖子 | 藤本 大地 | 渡部 憲一 |
| 市川 靖高 | 加藤 慎太郎 | 水津 佳也 | 辻田 佳奈子 | 古野 貴之 | 渡 正充 |
| 市古 隼良 | 加藤 大雄 | 杉本 武史 | 都築 福弥 | 増田 進作 | 曹 耀杰 |
| 伊藤 紀臣 | 神谷 賢輝 | 杉山 裕紀 | 都築 信雄 | 松野 匡輔 | 楊 云峰 |
| 稲垣 智義 | 神谷 将孝 | 鈴木 俊彦 | 寺田 淳一 | 松本 潤 | 李 輝 |
| 稲垣 陽子 | 河合 寿 | 高井 一 | 内藤 泰輔 | 三浦 和浩 | 河合 拓 |
| 今枝 彰 | 河村 優 | 高木 綾子 | 中野 智弥 | 箕浦 貴文 | 安江 昭人 |
| 植木 元一 | 川原田 あい | Mokhtar, | 中間 達彦 | 宮本 望 | Emi-Eliza, |
| 梅田 泰宜 | 木下 圭介 | Mokhzani Bin | 永田 達也 | 森 亮輔 | Elmira |
| 梅原 孝年 | 木村 健士 | 高木 謙 | 中山 侑 | 森本 涉 | Che Ibrahim |
| 遠藤 広隆 | 國友 隆弘 | 高島 正登 | 西尾 清志 | 安井 勇 | |

■ 学部 第二部 卒業生 (30名)

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 浅野 晃一 | 臼井 洋一 | 加藤 康崇 | 千藤 秀昭 | 野村 勇介 | 松井 秀徳 |
| 池田 圭 | 梅山 貴之 | 木下 進 | 田川 能子 | 平田 一晃 | 山口 公宏 |
| 石川 愛子 | 小川 貴司 | 後藤 雅和 | 長町 知宣 | 服部 真 | 脇阪 鉄平 |
| 伊藤 千洋 | 尾関 豊隆 | 杉本 卓也 | 成瀬 範晃 | 前田 真成 | 宮地 恭平 |
| 上田 基弘 | 小田 真也 | 仙石 直久 | 西川 数磨 | 増田 安彦 | 藤川 康人 |

<平成19年度進路・就職先一覧>

以下に示すのは、機械工学科卒業生および大学院機能工学専攻・都市循環システム工学専攻・情報工学専攻修了者（機械工学科関係分）の進路・就職先です。

■ 大学院 博士前期課程・後期課程 修了者 進路・就職先

| | | |
|-----------------|-------------------|--------------------|
| 愛三工業(株) | 大同メタル工業(株) | (株)ブリヂストン |
| アイシン・エイ・ダブリュ(株) | 大洋薬品工業(株) | 本田技研工業(株) |
| アイシン精機(株) | 中部電力(株) | 松下電工(株) |
| 愛知製鋼(株) | (株)デンソー | (株)マツダ E&T |
| 旭化成(株) | (株)デンソーウェーブ | 三菱重工業(株) |
| 王子製紙(株) | 東海旅客鉄道(株) | 三菱電機(株) |
| オークマ(株) | (株)東陽機械製作所 | 三菱電機エンジニアリング(株) |
| 川崎重工業(株) | 東レ(株) | (株)安川電機 |
| (株)クラステクノロジー | トヨタ自動車(株) | ヤマハ発動機(株) |
| キャノン(株) | (株)豊田自動織機 | ヤマハマリン(株) |
| 京セラ(株) | トヨタ車体(株) | ヤンマー(株) |
| (株)小松製作所 | トヨタ紡織(株) | 横浜ゴム(株) |
| 昭和医科工業(株) | 日本ヒューレット・パッカード(株) | (株)リクルートスタッフィング |
| 新日本製鐵(株) | 富士重工業(株) | ローランド ディー. ジー. (株) |
| セイコーインスツル(株) | 富士通テン(株) | 名古屋工業大学大学院 |
| (株)セック | フタバ産業(株) | |
| スズキ(株) | ブラザー工業(株) | |

■ 学部 第一部 卒業生 進路・就職先

| | | |
|-----------------|----------------------|--|
| 愛三工業(株) | (株)システム開発 | 林テレンプ(株) |
| アイシン・エイ・ダブリュ(株) | (株)スギノマシン | 日立造船(株) |
| アイシン精機(株) | スズキ(株) | 日立ツール(株) |
| 愛知機械工業(株) | 大同メタル工業(株) | 富士重工業(株) |
| アイチ情報システム(株) | ダイハツ工業(株) | (株)藤商事 |
| (株)アーク | 大和ハウス工業(株) | フタバ産業(株) |
| アスモ(株) | (株)デンソー | 本田技研工業(株) |
| (株)アルプス技研 | デンソーテクノ(株) | 水谷精器工業(株) |
| (株)イーテック | 豊田合成(株) | 三井造船(株) |
| NTN(株) | トヨタ自動車(株) | 三菱重工食品包装機械(株) |
| オークマ(株) | (株)豊田自動織機 | 三菱電機メカトロニクスソフトウェア(株) |
| 加藤信義司法書士事務所 | トヨタ車体(株) | 三菱レイヨン(株) |
| (株)川島織物セルコン | トヨタテクニカルディベロップメント(株) | Miyazu Malaysia Sdn. Bhd. |
| キャノン(株) | トヨタ紡織(株) | ヤマハ発動機(株) |
| 京セラ(株) | (株)ナガセインテグレーション | ヤマハモーターエンジニアリング(株) |
| コベルコクレーン(株) | 日産自動車(株) | リコーエレメックス(株) |
| 三洋機工(株) | 日本ガイシ(株) | Rohm-Wako Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. |
| (株)ジェイテクト | ニプロ(株) | 名古屋工業大学大学院 |

■ 学部 第二部 卒業生 進路・就職先

| | | |
|------------------|-----------------|----------------------|
| 愛三工業(株) | (株)ショーワ | トヨタテクニカルディベロップメント(株) |
| アイシン・エイ・ダブリュ(株) | 住商パイプアンドスチール(株) | 名古屋トヨペット(株) |
| アイシン・エンジニアリング(株) | ソニー(株) | 三菱重工業(株) |
| アイシン精機(株) | ダイキン工業(株) | 三菱重工プラスチックテクノロジー(株) |
| (株)青山製作所 | (株)ティーアイピーシー | ヤマザキマザック(株) |
| NTN(株) | 東明工業(株) | リコーエレメックス(株) |
| オークマ(株) | 豊田合成(株) | |
| 小島プレス工業(株) | トヨタ車体(株) | |

～ Voice of Students ～

「学会発表を通じて」

伊藤・横田研究室 修士 2 年 山下 拓郎

私は、2006 年 9 月に巴会から学会出席補助を受けて、熊本大学で行われた日本機械学会の年次大会で研究発表を行いました。

発表内容は、傾斜円管群を通過する流れに関するものです。熱交換器の代表的な機器の一つに多管式熱交換器が挙げられますが、現状では流れに対し垂直となるように円管群が配置されています。しかし実機では、円管群に対して斜めに流体が流入するなど様々な場合が考えられ、傾斜円管群を通過する流れを調べるが必要と考えられます。私の研究では、傾斜円管群下流域の特性を解明することを目的としています。

この学会を通じて多くの質問やご助言を頂き、自分自身では気づかなかった点や今後の課題が明確になりました。また、他の研究者の発表も数多く聞くことができ、その発表内容やそれらに対する研究者・企業の方の意見も参考になりました。年次大会を終えてからは、それらを踏まえ新たな課題に向けて研究を行うことができました。そして、2006 年 12 月に名古屋大学で行われた数値流体力学シンポジウムでも研究成果を発表することができました。

学会発表では研究の成果発表にとどまらず、多くのことを学ぶことができると感じました。その一つが人に伝える力だと思います。いくら有益な研究成果が得られたとしても、人に伝えることができなければ意味はありません。限られた時間でプレゼンテーションを行い、聴衆に伝えることができ初めて意見をいただけるものです。どのようなスライドを作れば聴衆に理解をしていただき、コメントをいただけるか。この課題に真摯に取り組むことができたのは私にとって、とても勉強になりました。社会人になっても必ずや必要不可欠な力だと考えています。

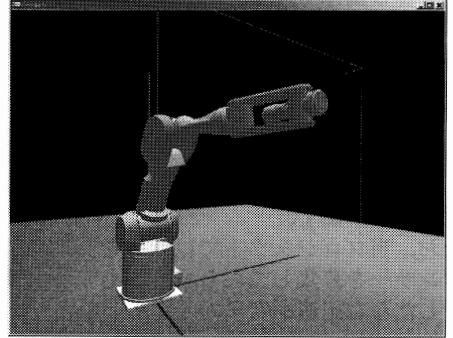
今後も学会出席補助制度を継続していただき、多くの学生に学会発表を経験してもらいたいと思っています。そして、私自身も巴会の一会員として学生への支援を行い、活躍して下さることを願っています。

末筆ながら、巴会に厚く感謝の意を表します。

「北海道での学会発表」

水野研究室 修士 2 年 伊藤 理貴

去る 2006 年 12 月、私は北海道札幌市で行なわれた計測自動制御学会システムインテグレーション部門 (SI2006) で日ごろの研究成果を発表してきました。発表内容は研究室で構築したロボットアームのグラフィカルシミュレータです (下図)。



このシミュレータは、ロボットプログラミングが体験できる環境を多くの人に提供すべく開発されたものです。東京海洋大学や三菱重工そして理化学研究所と連携し、ノート PC でも動かせるシミュレーションシステムを構築しました。私が担当したのはシミュレーション結果をリアルタイムに 3DCG モデルに反映させる箇所です。

学会ではシミュレータの解説と実際に動かすデモンストレーションを行ないました。1 年半付き合ってきたシステムなので中身は熟知していますし練習も重ねていたもので、当日のシステム不調が最大の不安要因でした。幸いにも当日 PC の機嫌はよく、発表は無事終わることができました。

学会は 3 日間で私の発表は最終日でしたが、初日から参加しました。朝の通勤ラッシュにもまれながら会場に向かい、夕方暗くなるまで色々な発表を聞く生活が続くと、札幌人にもなったような気がしました。

国内発表であっても北海道は遠く、費用は決して安くありません。しかし学会で得られるものは多く、距離 (費用) 的な問題でこの機会を逃すのは非常に勿体無いものです。今後もこの学資融資制度を活用し、一人でも多くの学生に貴重な経験をして欲しいと思います。

ROAD TO DREAM !!

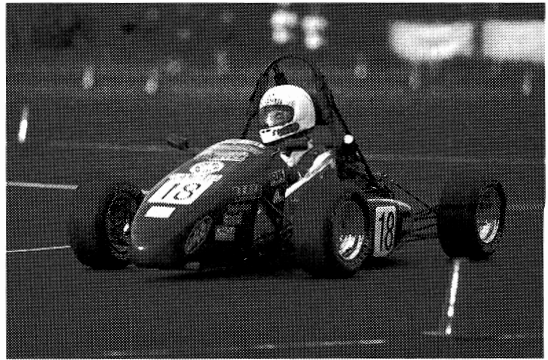
名古屋工業大学工学部付属ものづくりテクノセンター Formula JSAE プロジェクト
大学講義とは違う実践形式の教育プロジェクト

当プロジェクトは、通常の大学の講義では学ぶことのできない“ものづくり”を実際に体験することによってエンジニアに必要な知識・経験を身に付ける、“若手エンジニアの育成”を目的として設立されました。

今期で5回目を迎える「全日本学生フォーミュラ大会」出場に向け、車両の設計・製作のみならず、人材管理、資金調達・運営、スポンサー活動等、プロジェクトマネジメントも学生主体で行っています。

昨年度は、トラブルの多発、またそれによるテスト走行不足で、大会で車両の性能を十分発揮することができず、不本意な結果を残すものとなってしまいました。今期はその反省を糧に、メンバー同優勝を目指し活動を行っています。現在は設計を終了し、車両製作を行っています。

なお、当プロジェクトでは活動を支援して下さるスポンサーを募集しております。もし、ご興味をお持ちでしたら右記連絡先までご連絡下さい。



丹羽 隆彦(ニワ タカヒコ)

リーダー：第一部機械工学科 4年

Tel : 090-7317-0176

Mail: hl_k0_0311_veilside@yahoo.co.jp

http://www.qitc.nitech.ac.jp/formula/

「巴会 2003 年度版名簿」の発行について

巴会では、2003年(平成15年)12月に会員名簿を刊行いたしました。

今回の名簿発行に際しては、協賛広告を募集せず、発行に必要な費用には、巴会の会費と名簿の販売収入をあてることになっております。

つきましては、名簿のご購入について格別のご配慮をお願い申し上げます。

価格は、一冊 3000 円(送料含む)です。

「巴会」では、会員各位の個人情報の保護には従来から最大限の注意を払ってきております。

また、会員情報利用の目的、情報管理の具体的方法などを明記した「会員情報の取り扱いに関するガイドライン」の策定も合わせて進めてまいります。

名簿に関するお問い合わせは以下にお願い致します。

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

名古屋工業大学 機械工学科 巴会

(おもひ領域) 土田 陽一

TEL : 052-735-5341

電子メール : tsuchida@nittech.ac.jp

<予告> 平成 19 年度 巴会理事会・総会 議題資料

(1) 平成 19 年度役員名簿(案)

会長：長野 靖尚 (S41 本学名誉教授・特任教授)

副会長：学外・尾針 幸夫 (S45)

学内・伊藤 基之 (S43 教員)

理事：張田 吉昭 (S43 関東支部長)

福竹 泰彦 (S43 関西支部長)

小林 明発 (S40) 小河 保 (S43) 川崎 治憲 (S45)

今村 陽是 (S48) 大西 一 (S49) 新美 重秋 (S50)

尾関 良重 (S56) 伊藤 克彦 (S57) 仙石 武広 (S59)

富田 庸公 (H01) 大島 成通 (H02)

田川 正人 (S56 教員) 渡辺 義見 (教員)

小島 之夫 (S49 教員) 土田 陽一 (S51 教員)

北村 憲彦 (S56 教員) 糸魚川 文広 (S61 教員)

石野 洋二郎 (S62 教員) 山田 学 (S63 教員)

坂口 正道 (教員) 早川 伸哉 (教員)

成田 浩久 (教員)

監事：近藤 邦治 (S45) 藤本 英雄 (教員)

最高顧問：山田 豊 (S22)

特別顧問：金原 淑郎 (S25)

顧問：小出 謙 (S16) 西坂 誠三 (S16)

岩月 央 (S19) 中谷 宗三郎 (S20) 佐藤 真吉 (S22)

船橋 鉦一 (S28) 山中 由男 (S29) 石川 宏 (S30)

大河内 禎一 (S31) 塩見 正直 (S34)

木村 金治 (S35) 成田 政敏 (S35) 江崎 俊夫 (S38)

(2) 平成 18 年度事業報告(案) および平成 19 年度事業計画(案)

| | 平成 18 年度事業報告 | 平成 19 年度事業計画 |
|----|------------------------------------|------------------------------------|
| 会報 | 「ともえ」No. 40 発行 H18. 5 | 「ともえ」No. 41 発行 H19. 5 |
| 総会 | 名古屋工業大学 3 号館 2 階 M3 講義室 H18. 6. 17 | 名古屋工業大学 3 号館 2 階 M3 講義室 H19. 6. 16 |

| | | |
|----------------|---|---|
| 講演会 | 名古屋工業大学 3 号館 2 階 M3 講義室 H18. 6. 17 講演者 三菱重工業 名古屋宇宙システム製作所 宇宙機器技術部 顧問 小林 実 様 | 名古屋工業大学 3 号館 2 階 M3 講義室 H19. 6. 16 講演者 名古屋工業大学 佐野 明人 教授 |
| 総会 付随行事 | (1) 研究室開放 エネルギー変換機器研究室 バイオメカニクス研究室 (2) フォーミュラーカー製作の紹介 (学生) | (1) 研究室開放 材料強度研究室、材料評価研究室 機械制御研究室 (2) フォーミュラーカー製作の紹介 (学生) |
| 懇親会 | 名古屋工業大学 大会館 3 階集会室 H18. 6. 17 | 名古屋工業大学 大会館 3 階集会室 H19. 6. 16 |
| 支部 | (1) 関西支部総会・懇親会 H18. 7. 8~9 (2) 関東支部秋の集い H18. 11. 9 | (1) 関西支部総会・懇親会 (2) 関東支部秋の集い |
| 学内事業 | (1) ソフトボール大会 H18. 9. 11 (2) OB は語る会 H18. 11. 29 (3) 工場見学会補助 H19. 1. 17 (4) 巴会賞授与式および卒業記念パーティー H19. 3. 24 (5) 院生学会出席補助 (17 件) (6) フォーミュラーカー製作補助 | (1) ソフトボール大会 (2) OB は語る会 (3) 工場見学会補助 (4) 巴会賞授与式および卒業記念パーティー (5) 院生学会出席補助 (6) フォーミュラーカー製作補助 |
| 100 周年 事業関連 | 募金活動支援 | 募金活動支援 (会報「ともえ」別紙発送) |
| 会議 | 理事会 (4 回) | 理事会 |

(3) 平成 18 年度 会計報告案 (2006. 4. 1~2007. 3. 31) (4) 平成 19 年度 予算案 (2007. 4. 1~2008. 3. 31)

[一般会計]

| 収 入 | 支 出 |
|-------------------------|-------------------------|
| 前年度繰越金 0 | 会報発行発送費 995,715 |
| クラス会費 337,750 | 支部補助 250,000 |
| 終身会費 1,815,870 | 総会/講演/懇親会 255,730 |
| (卒業生 24 名) (475,870) | 学内事業補助 630,081 |
| (在学生 134 名) (1,340,000) | 名簿整備費 241,408 |
| 総会懇親会参加費 195,500 | 会議費 169,830 |
| 受取利息 269 | 事務通信費 (支部通信費含む) 129,915 |
| 基金会計から補助 370,468 | 雑費 47,178 |
| 合計 2,719,857 | 合計 2,719,857 |

[奨学会計]

| 収 入 | 支 出 |
|------------------|------------------|
| 前年度繰越金 2,093,684 | 巴会賞 45,000 |
| 受取利息 971 | 次年度へ繰越 2,109,655 |
| 基金会計から補助 60,000 | |
| 合計 2,154,655 | 合計 2,154,655 |

[基金会計]

| 収 入 | 支 出 |
|-------------------|-------------------|
| 前年度繰越金 19,403,265 | 奨学会計へ補助 60,000 |
| 受取利息 7,174 | 一般会計へ補助 370,468 |
| | 次年度へ繰越 18,979,971 |
| 合計 19,410,439 | 合計 19,410,439 |

[名簿会計]

| 収 入 | 支 出 |
|----------------|----------------|
| 前年度繰越金 253,180 | 名簿発送費 11,900 |
| 受取利息 0 | 雑費 3,420 |
| 名簿販売収入 108,000 | 次年度へ繰越 345,860 |
| 合計 361,180 | 合計 361,180 |

[100 周年事業会計]

| 収 入 | 支 出 |
|---------------------|----------------|
| 前年度繰越金 139,398 | |
| 名古屋工業会からの補助 306,000 | 次年度へ繰越 445,398 |
| 合計 445,398 | 合計 445,398 |

[一般会計]

| 収 入 | 支 出 |
|-------------------------|-------------------------|
| クラス会費 300,000 | 会報発行発送費 600,000 |
| 終身会費 1,600,000 | 支部補助 250,000 |
| (卒業生 20 名) (400,000) | 総会/講演/懇親会 250,000 |
| (在学生 120 名) (1,200,000) | 学内事業補助 700,000 |
| 総会懇親会参加費 200,000 | 名簿整備費 250,000 |
| | 会議費 150,000 |
| 基金会計から補助 300,000 | 事務通信費 (支部通信費含む) 150,000 |
| | 運営費・雑費 50,000 |
| 合計 2,400,000 | 合計 2,400,000 |

[奨学会計]

| 収 入 | 支 出 |
|------------------|------------------|
| 前年度繰越金 2,109,655 | 巴会賞 60,000 |
| 受取利息 1,000 | 次年度へ繰越 2,110,655 |
| 基金会計から補助 60,000 | |
| 合計 2,170,655 | 合計 2,170,655 |

[基金会計]

| 収 入 | 支 出 |
|-------------------|-------------------|
| 前年度繰越金 18,979,971 | 奨学会計へ補助 60,000 |
| 受取利息 43,000 | 一般会計へ補助 300,000 |
| | 次年度へ繰越 18,662,971 |
| 合計 19,022,971 | 合計 19,022,971 |

[名簿会計]

| 収 入 | 支 出 |
|----------------|----------------|
| 前年度繰越金 345,860 | 名簿発送費 3,400 |
| 名簿販売収入 30,000 | 次年度へ繰越 372,460 |
| 合計 375,860 | 合計 375,860 |

[100 周年事業会計]

| 収 入 | 支 出 |
|----------------|-----------------|
| 前年度繰越金 445,398 | 募金支援活動費 445,398 |
| 合計 445,398 | 合計 445,398 |

平成 19 年度巴会理事会・総会のご案内

日時：平成 19 年 6 月 16 日(土)

場所：名古屋工業大学 3 号館 2 階 M3 講義室

理事会・総会 14:00~14:50

講演会 15:00~16:00

演題：「知的探究心の赴くままに」

講師：名古屋工業大学・機械工学科 佐野 明人教授

懇親会 16:10~ (大学会館 3 階集会室にて)

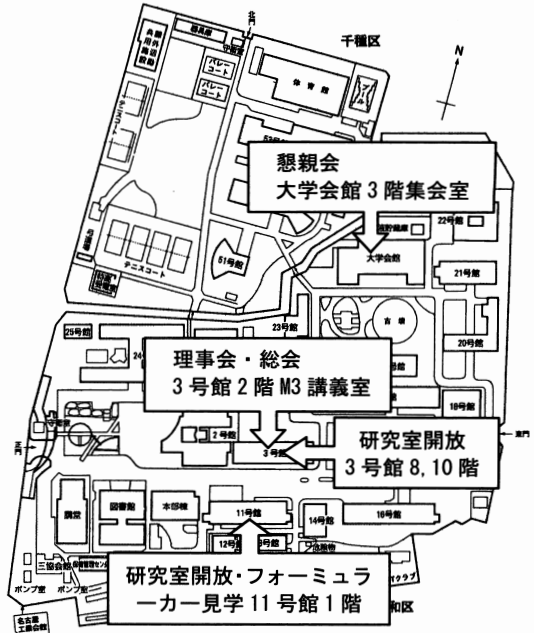
会費：OB 5,000 円 学生 500 円 (懇親会に出席される方)

申込：クラス代表者へお申し込み下さい (当日受付可)。
 なお、S40 年以降卒業の方は直接巴会本部へハガキまたは電子メールにて 6 月 6 日までにお申し込み下さい。

宛先：〒466-8555 名古屋工業大学おもひ領域 松本 健郎

電話：052-735-5049 (直通)

E-mail：takeo@nitech.ac.jp



※当日は工大祭も開催されます。工大祭のため車両の入構は制限されますので、自家用車の乗り入れはご遠慮下さい。

巴会総会付随行事 [平成 19 年 6 月 16 日(土)]

○研究室開放：12:30~13:00 (1 回目), 13:00~13:30 (2 回目)

1. 材料強度研究室 (神谷 庄司 教授) 3 号館 8 階 820 号室

材料評価研究室 (林 高弘 助教) 11 号館 1 階 119 号室

内容「ハイテク構造信頼性評価の最前線：最新微小構造材料の強度・信頼性評価と
 経年巨大プラント構造の非破壊健全性評価」

2. 機械制御研究室 (山田 学 准教授または山田 貴孝 助教) 3 号館 10 階 1001 室

内容「移動ロボット (飛行船) の自動制御システムの研究と災害地支援プロジェクト (総務省)」

○フォーミュラーカー見学：13:30~13:50 11 号館 1 階 107 号室

学生が製作したフォーミュラーカーを見学 (プロジェクトリーダー：機械工学科 4 年・丹羽 隆彦 君)

加藤雅樹 様 (D12) から、名高工機械科の同窓会誌「紫之香」第拾六号 (大正四年発行) に記載されています「巴会会歌」の歌詞をお知らせいただきました。改めて、巴会会員の皆様へ、ご紹介いたします。

巴 会 会 歌

作詞 井上俊一 (明四十三卒)
 作曲 宮崎安兵衛 (〃)

一、正気籠れる東陵に
 誓も堅き健児等が
 健実の氣風樹立して
 不撓不屈の旗高し
 フレフレ

二、高き自覚に溢る意気
 確き自信に腕の業
 若き健児が鍛え得し
 稜々気骨の血は躍る
 フレフレ

三、汚穢紛々の文明に
 憂国義憤の人あらば
 血潮と汗に清らけき
 巴の健児が誠きけ
 フレフレ

四、春妖香の霞わけ
 秋壮烈の霜を踏み
 集いて健児紫旗影に
 永久の団結歌うなり
 フレ機械フレ機械
 フレ機械フレ機械
 フレ機械フレ機械
 機械機械フレ

会報「ともえ」がホームページでもご覧いただけます

巴会では、活動内容をホームページでご紹介いたしております。

ホームページのアドレスは以下のとおりです。

<http://www.mech.nitech.ac.jp/~tomoe/index.html>